

2013年度 中央大学共同研究費 一研究報告書一

研究代表者	所属機関	文学部		2013年度助成額
	氏名	石村 広		2,002 (千円)
	NAME	Hiroshi Ishimura		
研究課題名	和文	漢語諸方言の動詞連続構文研究 —結果構文を中心に—	研究期間	2012年度 ～2014年度
	英文	A study of serial verb constructions in the Chinese languages : Particular focus on the resultative expressions		

1. 研究組織

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	石村 広	中央大学・文学部・教授	広東語・タイ系少数民族語の調査と地理的分布に関する共時的研究	研究代表者
2	遠藤 雅裕	中央大学・法学部・教授	福建・台湾地域の方言調査および文献資料収集	研究分担者
3	千葉 謙悟	中央大学・経済学部・准教授	上海地域の方言調査と歴史文献を用いた通時的研究	研究分担者
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
合計		3名		

2. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 1000 字程度、英文 100word 程度）

2013 年度の主な研究課題は、① 献資料収集の継続と資料整理、② 漢語諸方言の文法調査と実証的分析の 2 点であった。以下、2 点目に絞って概要を報告する。

2012 年度に提示した理論的枠組みをもとに、南方漢語諸方言の結果構文（対格マーカーとなる前置詞を用いた「処置文」を含む）に関する文法記述調査を行った。北方漢語では VRO（動詞＋結果補語＋目的語）語順しか許容しないが、中国南方に分布するタイ系言語（非漢語系言語）では VOR（動詞＋目的語＋結果補語）語順しか許容しない。両者の中間に分布する南方漢語方言では、どちらの形式を利用するのか。この一年間で実際にインフォーマントから詳しいデータを得られたのは、上海語、浙江寧波語、浙江温州語、福建アモイ語、台湾閩南語、台湾海陸客家語であった。海陸客家語は 2013 年 6 月 10 日、9 月 30 日、2014 年 3 月 11～13 日の計 3 回、台湾新竹県新埔鎮義民廟にて処置文に関する実地調査を行った。現在調査中の言語は、広東と広西の粵語である。これらの調査の結果、現時点で次のことが判明した。

南方漢語方言も北方漢語のように VRO 語順が優勢で既然法を基本とするが、VOR 語順の使用も認められる。この分離型の語順に見られる特徴として、① 目的語は代名詞または数量詞を伴う一般名詞である、② 補語は基本的に単音節語である、③ 命令文や仮定法のような未然または非現実の文脈で用いられる、④ 処置文は北京語ほど発達していない、といった点を挙げる事ができる。これらの言語事実は、語順と使役性の対応関係に関する本研究の仮説にも符合する。すなわち、VOR 語順は VRO 語順よりも使役性が低い事象を表す場合の文法形式である。一方で、予測に反するデータも得られた。一例を挙げると、アモイ語では補語が複音節語のとき、分離型の語順でも既然の事態を表すことがある。共通語の影響が顕著な上海語などに比べると、動詞と結果補語の結合度が低く「保守的」なのである。加えて、漢語方言は本来、文字がないので漢字表記に規範や統一性がない。そこで上記の調査と並行して、語彙と音韻に関する歴史的研究も行った。具体的には Morrison『華英字典』(1818-23)の諸版本との対照および Ingle『漢音集字』(1899)が反映する音系の分析である。また、『漢音集字』における標音状況と成都方言を記した『西蜀方言』(1900)から中国西南地域における n-と l-の合流過程について検証し、19 世紀最末期の漢語方言の様相を明らかにした。

方言調査では、当該言語に関する知識も含めて、準備のために多くの時間を費やさなければならない。次年度は、非漢語系言語との接触が濃厚な地域の漢語方言の結果表現に関しても、類型論的観点から調査・分析する予定である。

Our project aims to examine the relation between the syntactic form and the causative meaning of the verb-resultative complement construction (in brief, VR) in Mandarin and Chinese dialects. Different from the traditional framework of Chinese grammar, we suppose that the VR is a serial verb construction, which is characteristic of the 'isolating language' like Thai and Vietnamese. It is worth mentioning that there is a continuum between Mandarin and south-east languages geographically. In the second year of this project, we mainly researched VR constructions which are spoken in Shanghai, Ningbo, Wenzhou, Xiamen, Taipei and Hailu(Hakka) in order to demonstrate the above supposition. The result clearly shows that the 'VOR' type in these dialects has some different grammatical features from the 'VRO' type which is a canonical word order in the so-called Sinitic languages.

3. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p><u>石村広</u>，直接宾语限制条件和汉语结果句式（直接目的語制約と中国語結果構文），『現代中国語研究』，第15期，【査読あり】，52-61頁，2013年10月，東京：朝日出版社</p> <p><u>石村広</u>，南方漢語に現れる分離型結果構文について——語順と他動性の関係を中心に——，『文藝研究』No.105-1，慶應義塾大学文学部，【査読なし】，1-15頁，2013年12月</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p><u>石村広</u>，从动结式的使动意义来源问题看现代汉语语法的研究意义（結果構文における使役義の来源問題からみた現代漢語語法の研究意義について），第七屆現代漢語語法國際研討會（第7回現代漢語語法國際フォーラム），シンガポール南洋理工大学，2013年12月21-24日</p> <p><u>遠藤雅裕</u>，台灣海陸客語的處置式（台湾海陸客家語の処置文），The 21st Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics，国立台湾師範大学，2013年6月9日</p> <p><u>遠藤雅裕</u>，南方漢語のアスペクト体系と「有」—台湾海陸客家語を中心に—，中日理論言語學國際フォーラム2013，同志社大学，2013年7月14日</p> <p><u>遠藤雅裕</u>，台灣海陸客語的處置式與動補結構（台湾海陸客家語の処置式結果構文と動補構造），Workshop on New Perspectives on Linguistic Research and Teaching，台湾・国立清華大学言語学研究所，2013年9月28日</p> <p><u>千葉謙悟</u>，明代西洋資料概況—欧洲漢學的醞釀和興起—，元明漢語歷史研究工作坊，浙江大学，2013年9月1日</p> <p><u>千葉謙悟</u>，『漢音集字』（1899）と近代湖北方言，近世語学会秋期研究集会，愛知大学，2013年12月7日</p> <p><u>千葉謙悟</u>，モリソン『華英字典』「五車韻府」の新版本—現存諸版との比較—，近代東アジアの風景：語彙史から文化史へ，天津外国語大学，2014年3月23日</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>